
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 3時15分）

◇ 伴 高志君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位5番、伴高志君。

（1番 伴 高志君 登壇）

○1番（伴 高志君） それでは、通告に従いまして、壇上からの一般質問を行いたいと思いません。

今は3時を過ぎたところですがけれども、私が・・・、そうですね、まず最初にお話したいのは、役場の職員の皆さんがいつも本当にお仕事をされて、いろいろな努力をされているところで、この放送を聞いている方もいるかもしれませんが、一言いつもお疲れ様でございますということをお伝えしたいと思います。

私は、夜遅くに役場の前を通ることが時々あります。9時を過ぎても電気が点いて仕事を続けている職員の方々の姿を見ることがあります。日中は外の仕事や外部からの対応、電話の対応などで自分の仕事に取り組むことができなくて、一段落ついてから、落ち着いてからでないとその日やる予定になっている仕事ができない。そういう事情があるのかもしれませんが、夜遅くまで残って仕事をしている職員の方々には頭が下がります。

しかし、これは必ずしもよいことではありません。過労に繋がったり、プライベートな時間の制限によって、仕事の効率だとか、仕事の上での新しい可能性を生み出す意欲が欠乏してしまう、制限してしまうということも考えられます。

私は、町民の期待に応えるためにも、職員の方々と一緒に松崎町をよりよく住みやすく魅力ある町にしていきたい、こういう立場から一般質問を行っていきたくと思います。

私の質問は、人口減少時代における松崎町の移住・定住促進についてであります。とりわけ移住の部分が多くなってしまいうんですけれども、もちろん定住ということ、それから転出者をださないためにはどうしたらいいか、こういうことも質問の中に盛り込んでいかれたらと思います。

最新の国勢調査の速報値では伊豆市町で人口が減少して、とりわけ松崎町は減少率が最も高い方に位置してしまうという深刻な状況であります。このため税収の縮小、ますます地域から

活力が失われてしまうということがあります。

こうした状況に危機感を持ちながら、松崎町が一丸となってしっかりとした計画を整備し、具体的な施策のもと、日々の業務に目標をもって取り組む姿勢が求められてきます。

20歳以上の町民を対象に町が行った地方創生に関するアンケートの中に示されていますが、松崎町が住みよい理由として主にあげられるものの一つとして、海・山・川などの自然環境があります。ここに魅力を感じて観光客は訪れますし、ふるさと納税の寄附金の使い道についても自然と調和し、快適な環境が整ったまちづくりという希望が上位に位置しています。もちろん移住を希望する場合の主な理由もやはりここにあるのではないかと、さらにもう一つは、大事な要因として松崎で出会う人や観光や旅行で体験したこと、思い出があったり、そういうことなのではないでしょうか。

私たちの日々の対応は、移住を考えるまたは町に留まるそういうきっかけになっているということ意識していただけたらと思います。

そこで、町長に質問をしていきたいと思えます。

現在、町で把握しているという最近の移住希望者の数と主に年齢層などを教えてください。ここで年齢層別に例えば、定年退職者が何割だとか、若い人がどのくらいいるかだとか、そういったことが伺えたらと思います。

次に、移住希望者に不可欠な住居の確保ということで、空き家バンクの進行状況ということなんですけれども、これは私も議員になったばかりの昨年の6月にも質問しましたし、9月にも質問しました、これで3回目になりますけれども、少しずつでも前進していかれたらという気持ちで3度目の質問とさせていただきます。

そして、次に、移住促進のこの関連で、町の活性化ということなんですけれども、このまちおこしに関しては、町の職員の人手不足ということはあるかもわかりません。これは役場の中の仕事の整備とか、そういったこと、いろんな要因が考えられますけれども、その一部を民間に委託するということと仕事を整理して、例えば、空き家バンクは少しずつでも前進していけるという、そういう方向性というもの示していただけるようなお話を伺えたらと思います。

次に、この地域活性ということで、企業誘致でこの東区の元商店の「とうふや」さんの所が改築工事を行っていて、富士ゼロックスという会社の進出計画、これは現在どのような状況になっていて、町はどのように関わっていくのかということをお願いいたします。

最後に、町で進めている・・・、交流という意味も含めますし、やはり婚姻率が低いという・・・、それも伊豆の中ではそういう状況になっていますけれども、これに対する対策を教えてください。

い。

以上で壇上からの質問を終わります。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 伴高志議員の一般質問にお答えします。

1. 移住・定住促進について。①「最新の国勢調査の速報値では伊豆全体で人口減、松崎町は最下位に近い深刻な状況です。このため税収の縮小、ますます地域から活力が失われてしまいます。松崎町は魅力ある町として移住を希望する人が増えていると聞きます。町で把握している最近の移住希望者の数と年齢層は」についてです。

平成27年の国勢調査の速報値では、町は6837人となり、平成22年の国勢調査の7653人から816人減、減少率10.7パーセントとなり、県内では西伊豆町(△13.0パーセント)、川根本町(△10.8パーセント)に次ぐ大きな減少率となっております。

人口減少の抑制を図るため、移住促進を図ることは重要なことであり、町ではこれまで地域おこし協力隊制度の導入、空き家情報バンク制度の創設、田舎暮らし体験ツアー、移住・定住パンフレットの作成、移住相談会やセミナーなどへの参加を通して、松崎町への移住を促(うなが)してきました。

町への、最近の移住希望者数と年齢層についてですが、希望者は昨年4月以降51人となり、年齢層は、30代3名、40代7名、50代11名、60代18名、70代10名、不明2名となり、55パーセントが60代以上となっております。

なお、この最近の移住希望者数というのは、移住相談やツアー参加者も含まれています。

②「空き家バンクの現状は。貸せる家、借り手の状況は」についてです。

町では、平成25年度から町内における空き家及び空き地(宅地)の有効活用と定住促進による地域の活性化を図ることを目的に、物件情報の登録と提供を行う空き家情報バンク制度を始めております。

空き家情報バンクの物件につきましては、情報提供いただき、登録した2軒(松崎・岩地)をホームページ上で公開しており、利用者登録をしている人は、平成28年1月末現在で19名となっております。

③「担当職員の人手不足があるなら民間に委託していく考えはありますか」についてです。

空き家情報バンク制度につきましては、区長会や回覧、広報、ホームページで物件の登録をお願いしてきましたが、登録物件がなく、平成26年度からは地域おこし協力隊により、町内の空き家のしっかい調査を実施しております。現在、中川地区8地区と石部地区が終了し、中川地区の

残り3地区（南郷・建久寺・那賀）について調査を行っているところです。

協力隊員だけでは、思うように調査が進んでおりませんが、個人情報の関係もあり、なかなか民間に委託して調査とまではいきませんので、今後は区長様方に情報提供をお願いするなどして、できるだけ早く町内全域の空き家の調査を行い、登録物件を増やし、移住につなげてまいりたいと考えています。

④「企業誘致で地域活性化をすることは良いことですが、東区の元商店へ進出を予定している富士ゼロックスの進出計画、町はどのように関わっていくのか教えてください」でございます。

「日本で最も美しい村」連合のサポーター企業である富士ゼロックス株式会社とは、平成26年度から加盟村である北海道美瑛町や長野県木曾町とともにワークショップを開催し、地域課題やその解決策について考えてまいりました。

ワークショップを行う中で空き家を活用し、まちづくり活動の拠点施設や外部人材にワーキングスペースとして貸し出すシェアオフィス整備の構想が上がったことから、東区にある空き店舗を移住・交流拠点施設として利用できるよう整備しております。

富士ゼロックス株式会社には、シェアオフィス事業の方針について町、住民、町外者が主体的に関与し検討できるようタウンミーティングの開催、シェアオフィス企画や設計業務などをお願いしております。

また、平成28年度にはW i - F i をはじめ通信、電機インフラ環境の整備やI C T機器など、外部ワーカーが働ける設備を整えるとともに、町民も気軽に活用できる空間としてワークショップやイベントを開催すべく、当初予算に計上したところです。今後も富士ゼロックス株式会社とは連携し、事業を推進してまいりたいと考えています。

⑤「伊豆地域は未婚者が多く、出生率は、下田、河津、南伊豆を除いて県平均を下回っているとの報道がありました。松崎町ではどのような対策をとっているのか教えてください」についてです。

人口減少の大きな要因として未婚者が多いことがあげられ、50歳までに結婚の経験のない人の割合を示す「生涯未婚率」を見ると1980年に男性2.6パーセント女性4.45パーセントが2010年には男性20.14パーセント女性10.61パーセントと大幅に上昇しています。

また民間による調査では、男性の55パーセントが自分の年収が少ないことがハードルとなっていると回答し、一方、女性の39パーセントは収入の安定を男性に求めており、現に年収300万円以上の男性の既婚率は25パーセント強ですが、300万円以下の既婚率は9パーセントと急激に低下しています。

収入が下がる、未婚者が増加する、出生率が下がる。この悪循環を断ち切るには、社会全体の景気の回復、社会保障制度の充実が必要ですが、子育て支援の継続や他市町で効果があった施策を取り入れるなど、幅広く対応していきたいと考えております。

以上でございます。

○1番（伴 高志君） 一問一答でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○1番（伴 高志君） それでは、最初の質問は、移住希望者の数ということで、答弁がありましたように、ほとんど半数以上が50歳以上ということなんですけれども、やっぱりこの年齢別の対応というか、いろいろあると思いますけれども、まず一つ聞きたいのは、町として、この松崎町を移住先に選んだ理由は何ですかということとは把握していますでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 60歳代以上が55パーセントというようなことで、町長が回答したと思うんですけれども、定年されてからこちらに自然とか、そういう豊かな所で少し農業をやりながら生活をしてみたいというような方が多くでございます。若い方でもやはり農業をやってというような方もあるわけなんですけれども、なかなか大変な部分もあるわけですので、一度に移り住んでということにはいきませんので、そういう中で、お試しツアーみたいな形の中で松崎町を知っていただき、あるいは体験していただくということを通じた中で、それが今後研修になったりとか事業になったりとか、副町長の方からもありましたけれども仕事を引き継いでしまう継業という形になったりとか、そういう形に繋がっていくのかなと思いますけれども、主に定年された方が多いという状況ですから、そのような状況でございます。

○1番（伴 高志君） この希望に関して、この、いまお話があったのは、51名ツアー参加者を含むそういう移住希望者があったということなんですけれども、ここから発展的にお試し移住だとか継続的に農業体験ですとか、そういう努力は、今はなされているんでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） これまで、田舎暮らし応援ツアーですとか、そういうものを実施したりとか、あるいは民間の方でそういう体験ツアーをやったりとか、あるいは移住の関係の団体の方なんかツアーをやって、南伊豆ですとか、松崎ですとか、西伊豆に来ているようなものを利用して、松崎町に来ていただいているということがございます。

いずれにしても地域を知っていただいて、あるいはもう既に移住されて住んでいる方々とお話をさせていただく中で、少しでも松崎町のことを知っていただく、あるいは仕事の可能性というものもその中で探して、先ほど申しましたけれども、一度に移住ということにはならないと思うんですけれども、何回か通っていただくことによって、その可能性も含めて探っていた

くというようなことで、いま進めています。

- 1番(伴 高志君) 半数以上は退職者という、そういう方が多いということですが、こういう方たちであっても、やはりもう地域によっては限界集落になっているようなところであったり、そういうところがあると思いますので、積極的に受け入れていけるような体制をお願いしたいと思います。

また、こういう中で、実際に地元の中での受け入れの困難者などあるかもわかりませんが、そういうところも町や担当職員または地域おこし協力隊がサポートにいたらということ希望していきたいと思います。

そして、促進事業ということに関して言いますと、例えば、南伊豆町ですと東京新聞に・・・、例えば、1月26日付に載っていたのは、お試し移住を今年から開始しますと、東京杉並区で説明会を開いたという・・・、松崎町ではこうした移住促進の事業を具体的に推進していくという計画はありますでしょうか。

- 町長(齋藤文彦君) 「さとづくり総合研究会」、伴君も知っていると思うんですが、ありまして、これは南伊豆のNPO伊豆未来塾との共同主催で旧糸川荘を改修して、就農支援とか移住促進の事業を民間でやっていますので、これを町としても応援していききたいなと思っています。この中で移住・定住ではありませんけれども、松崎に泊まって、ちょっと松崎を見てみたいというようなことがございましたら、まつざき荘を使ってくださいというような話をしているところでございます。

- 1番(伴 高志君) それでは、とりわけ若者の移住希望についてというテーマで少しお話していきます。いま課長からも答弁がありましたけれど、いずれにしても農業だとか、そういう自然のある中で過ごしたいという、そういう都会からのしがらみから離れたい、最初はそういう少し理想を抱いたようなイメージで来るのかもしれませんが、やはり若者の移住の希望が少ない理由についてというのは、仕事の確保ということがあると思いますけれども、今後、総合戦略の中でも多岐にわたって説明されていますけれども、町としては、若者の移住促進のためには、これまではどのような施策を取ってきて、またこれからはどのように違うか、そのあたりの違いを・・・、もし町民にわかるような説明をしていただけたらと思います。

- 企画観光課長(山本 公君) 農業の関係でいきますと、これまでもお話・・・、予算なんかの審議の中でいろいろ出ているかと思っています。青年就農給付金ですとか、あるいは後継者育成に関する補助金、助成奨励金の制度ですとか、そういったものが出てきているかと思っています。なかなかこれまでの議論の中でもすぐに仕事というのが、なかなか来てできるかという部分もあ

りますけれども、いろんな組み合わせなんかをした中で仕事を作っていく、観光的な部分もそうですし、あるいは農業の部分もそうですし、こういうことをやっていく。いずれにしても、こちらでサポートするような態勢がないとなかなか来てもできないということになりますので、それはうちの方の窓口あるいは農業の方の窓口とか、丁寧に対応ができればなと思いますし、また、先ほど町長から話がありました「さとづくり総合研究所」とか、民間の方の力をお借りしながら、そういったサポートをしてまいりたいと考えています。

○町長（齋藤文彦君） 静岡新聞に地域おこし協力隊を知って、体験ツアーに首都圏から6人というような・・・、新聞に載ったわけですがけれども、やっぱり地域おこし協力隊はその場に住んでいるわけですから、やっぱりそういう人たちに来て・・・、そういう人たちが来た人を、松崎町はこうだよと・・・。そして、やっぱりシェアオフィスの関係もありますけれども、やっぱり何回も松崎町に来てもらって、そして、この地域はこういう地域だよと、こういう人が住んでいるよと、それで、こういうような協力的な人がいるとか、手助けをしてくれる人がいると。こういうようなやつを細かにやっていかないと、来る人も非常に・・・、もし自分が行く場合も非常に心配ですから、そういう丁寧な対応をしていくことが必要ではないかなと思っています。地域おこし協力隊も今度増えますので、そういうことをやっていけばいいのかなと思っているところです。

○1番（伴 高志君） それでは、もうちょっと具体的にこの総合戦略の中でも示されていますけれども、地場産業にもう少し関わっていけるような体制というか、例えば「さとづくり総研」ということでありましたら、農業体験というのを少しやっていると思うんですけれども、桜葉の生産に体験的に関わるだとか、これに関しては桜葉女子ファーマーズ養成事業というのも載っていますけれど、これは具体的にはこれから計画していくということなんですかね。

○企画観光課長（山本 公君） 総合戦略の中で地域産業の創生あるいは育成ということの中で、基幹産業であります桜葉の振興は当然考えていかなければならないというようなことがありまして、桜葉の団体もできて、がんばっているところでございますけれども、やはりその担い手をいかに確保していくかということが重要になってくるかと思います。

いま、農業女子というようなことの中で、農業に関わる女性の方も多くなってきているというようなこともございますので、それらのことを、あるいは女性の感覚でいろんな製品を作り出していただくというようなこともしていきたいなと考えています。

予算の中では、すぐ桜葉女子ファーマーズという形の予算付けというのはされてないわけですが、今後そういった方々を、来ていただいて対応していただく、あるいは地域おこし

協力隊がその部分のお手伝いをしたり、関わっていったりというようなこともあるわけですので、そういうことで進めてまいりたいと考えております。

- 町長（齋藤文彦君） 桜葉の組合がありまして、桜葉もいろいろな方向性が見えてきまして、無農薬で桜葉のお茶を作ると、そして化粧品を作るといようなやつが現実味を帯びてきましたので、桜葉を使ったスイーツとか何とかといたら、やっぱり男性より女性の方がいいのかなというようなことも感じまして、地域おこし協力隊の女性陣の中でそういう人がいないかなと思ったらちょっといなかったわけですけども、そのようなことを、やっぱり女性が入って来ると桜葉もそれなりに脚光を浴びてくるのではないかなと思っています。

松崎町はやっぱり生産日本一ですから、今から日本一を作ろうなんてとてもできないわけですから、この日本一をいかに継続させていくかということで、いま全力を注いでいます。

- 1番（伴 高志君） そうですね。農業に女性が関わっていくということはすごく明るい取り組みの一つなんじゃないかなと思いますので、積極的なこれからの活動に期待しています。

それでは、次の質問の中で空き家についてですけども、現在の空き家バンクの現状、貸せる家、借り手の状況、これについてお願いします。

- 企画観光課長（山本 公君） 先ほど町長の答弁でもありましたが、空き家バンクとして現在登録してあるのが2件、松崎と岩地の2件です。これはホームページの中で公開はいたしてありますけれども、またご覧いただければと思います。

なかなか空き家の調査が進んでいなくて、大変ご迷惑をかけていますけれども、実際に空き家・・・家はあるんですけども、以前にもお答えしたんですけども、なかなか貸していただける物件がそう多くはないというようなことがございます。「帰省をした時に使うよ」とか、あるいは「家財が置いてあってだめですよ」とか、あるいは「賃貸すると返還を求める時にちょっと厄介だよ」とか、「修繕が必要になる」とかというようないろんな問題等がありますけれども、ただ、そうは申しましても、有効活用を図っていく意味において、やはりその地域の方々にいろいろ聞いたり何なりして、できるだけ貸していただけるような状況をつくっていかねばならないかなと思いますので、今後も積極的に借りられる物件を探していきたいと考えています。

- 1番（伴 高志君） 空き家バンクで2件登録があると、それで、ホームページに掲載されているんですけども、この金額が5万円と5万5000円という金額なんですけれども、これをどうみるかというのは、なかなかいろんな多方面の意見がありますけれども、若い人の視点で言うと、かなり高いです。これはやっぱり都会でこれくらい・・・、もっとするのもかもしれないで

すけれども、5万円とか5万5000円都会ですのを田舎でも結局同じだったら、なかなか呼び込む対策としては、難しいのではないかとということがあるんですけれども、そこで、やはり貸す方もなかなか実態を少しずつ私も関わって見ていますと、まず、家主が松崎町に住んでいないというケースがかなりあるということなんですけれども、家主の・・・、その持ち主まで確認できるというところが・・・、それがどうなっているのかという、まずそこを確認したいんですけれども、役場としては、もう持ち主まで確認できているということによろしいですか。

○企画観光課長（山本 公君） 全て確認できているわけではございませんけれども、回りながら誰が管理しているのかということも含めて調査をしている状況でございます。

○1番（伴 高志君） その所有者というのが、いろいろなケースがあると思いますけれども、松崎町には住んでなくて、よそで、しかももう本人はもう亡くなられている。それで兄弟や親せきの方、そういった方まで連絡先をたどっていかないといけないという状況がある中で、ますます空き家が放置状態というか、続いてしまうということが深刻になっていると思いますけれども。ここでやっぱり一步步進んで、関わっていかないと放置がそのままになってしまいますので、それはそれでこういう何もない場所で、特に近隣に迷惑をかけていないということであれば、それはいいのかもしれないんですけれども、例えば、去年は5月末に空き家特別措置法というのができまして、この実際の適用というのは、全国でも本当にほとんどまだされていないということなので、そんな簡単にじゃまになっているかどうかというのを判断するのは、それは最終的には住民ですから、そういうことを、撤去を命じるということは簡単にはやっちはいけないということがあります。

しかし、例えば災害の関連で、最近土砂災害法に基づく特別警戒区域の指定についてという説明会が地区別で行われていたんですけれども、こういう中で何と言うんですかね。その警戒区域に家とか、土地を持っている人たちが改築したいという場合に、許可がいろいろな制約があったり、あるいは防壁を造らなくてはいけないとか、そこら辺は、そういう要請が県から強くなっているというような、そういう側面はあるんですかね。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） いま現在、静岡県の方で土砂災害区域、特別警戒区域等の説明会を開いております。特別警戒区域になりますと、当然その場所には家が建てられない、建て直しもできない、特別な措置をしなければいけないといういろんなレッド地点の場合は制限が加えられる。

また、家のローンに関しても急傾斜地崩壊防止対策事業等の施工などにより、背後地を安全にしなければいけないとさまざまな制約があるわけでございます。

そういうことで、空き家を持っている・・・、伴議員の質問の主旨から言うと空き家を持っている方が、じゃあ、その家の・・・、レッドの部分にある空き家をどう対処するのかというのは、それぞれの個人個人の判断でございますから、我われとしましても、県の方の地域指定の・・・、いま現在のところ説明会を回りながら、指定の方を最終的に決定するのをを待っているという状況でございますので、その時点で空き家対策に関しては、今後持ち主がどう判断するかによるかと思っています。

◎会議時間の延長

○議長（稲葉昭宏君） お諮りします。本日の会議時間は議事の都合によりまして、この際あらかじめこれを延長したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）なし

○議長（稲葉昭宏君） 異議なしと認めます。

よって、本日の会議時間は延長することに決定いたしました。

続けます。

○1番（伴 高志君） 今、課長の方から説明がありましたけれども、この空き家に対するその措置というか、これは最終的には持ち主だと。その中で住民との関わりがもちろんあるんですけども、持ち主がちゃんと特定できるということと、それから、やっぱりその空き家を町が積極的に利用していきたいという・・・、そういうことを働きかけていけば、この空き家バンクというのももうちょっと進展させることができるんじゃないかと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 私も2件ほど紹介して、いま住んでいるんですけども、本当に・・・、伴議員の中で民間の人とか何とか言いましたけれども、一番やっぱり情報を持っているのは区長さんだと思いますので、本当にその区が本当に積極的に受け入れをする意向がある地域においては、地域移住促進委員会みたいなものを作ってやっていけばいいのかなと思っています。

実は、私の紹介した2件には・・・、2件住んでいるんですけども、移住した人が来ると、ものすごく地域が活性化することがあるんです。私の1人の人は県の職員でカヌーが好きで、どうしても岩地に住みたいと私のところへ紹介してくれと来まして、3年間住んで子どもも生まれました。その後、その友達が住んで、またその友達がいま住んで別荘風に使っていますけれども、その県の職員の方がものすごく地域に、きびなご引きから、ひじき取りから、村役から、消防団まで入って、ものすごくがんばってくれたので、これがいま岩地のシーカヤックマ

ラソンを全部仕切ってくれて、1日ですけれども、すごい経済効果を及ぼしています。

そして、もう1件は写真家の方がみえられまして紹介したわけですが、年寄りの夫婦の方が来られまして、それで奥さんは写真家で、旦那さんがアコーディオンを弾く人だったものですから、地域の老人会に行っておきまして皆さんで歌を歌ったりして、地域が元気になったし、地域のいろんな行事にも参加してくれて、その地域を盛り上げてくれたことがありまして、ですから移住した方がいい人だったら、ものすごく地域がよくなるなということがございます。

ただ、もう一つはその人が亡くなって、違う人に替わったわけですが、私が紹介したわけですが、ちょっと地元ともめて、紹介者が非常に困っているというようなことがございまして、非常に難しいところがあるわけですが、やっぱりその地域が、こういう人が入って来たら、こういう地域が活性化するというようなことがあれば、それなりに委員会みたいなものを作って、地域で受け入れるような態勢を作ればよいなと思っているところです。

○1番(伴 高志君) そうですね。町長ご自身の関係で、すごくいい方が移住されたりとか、あるいはその人によって、もちろん地域に受け入れやすい、なかなかそうではないという、そういうことはあるかもしれないですけども、そういった時に、私もそうですけれども、やはり・・・、そうですね。地域の中でもそういう移住者をサポートしていける態勢ができたという事は考えております。

それで、ちょっと全く関連質問で離れてしまうんですけども。これは個別的なケースなんですけれども、松崎町にもう10年以上住まれている、それで事情があって隣の西伊豆町に引っ越してしまっていて、それでまた改めて今度は松崎町の町営住宅に入りたいという希望を出してきたという方がいたんですけども。そうしたら町営住宅というのは町民向けなので、町外の人にはだめですよというふうに簡単に断られてしまったんですけども。こういうちょっと特殊なケースだったんですけども、元々移住者ですけども、10年以上松崎町に住んで、それで、一瞬事情があって西伊豆に住んで、また改めて松崎に戻りたいという時に、町外ですというふうに簡単に言われてしまったという・・・。そういう事情を考慮できないのかなというか、この町営住宅というのは、午前中の藤井議員の質問にもありましたけれども、待っているという部分もあると思うんですけども、これは町民に限定するというのは・・・、もう少し緩やかにするという事はできないですかね。

○産業建設課長(齊藤昌幸君) 町営住宅の入居条件に関しましては、条例で町民という、松崎町民という規定がございますので、伴議員の言っているとおり、過去に松崎町に住民登録をして、いま現在、西伊豆町に移っていると、その方に関して何とかならないかという趣旨でござ

いますけれども。いずれにしても条例で定まっている以上はどうしようもないものですから、もし何でしたらば、一旦また松崎町に戻っていただいて、その上で、空きが出た段階で申し込んでいただければよろしいんじゃないでしょうか。いま現在、伴議員の趣旨では、ちょっと無理だと思います。

○1番（伴 高志君） 今のはちょっと特殊なケースですので、今後自分で取り組んでいきたいと思えます。

それでは、次の質問ですけれども、企業誘致ということで、この富士ゼロックスの進出計画ということでお話しいただいたんですけれども、これは、もと豆腐屋さんの所を活用してという、これ自体はすごくいいことだと思うんですけれども、やっぱりこの町の税金を1000万円以上投入して、それで、やっぱり町に投資しているわけですから、町民の生活ですとか、それから、商店への支援ということに考慮して、貢献できるような体制というのは・・・、よく期待されていると思うんですけれども、その点について答弁をお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。伴君、時間ですから延長しますか。

○1番（伴 高志君） お願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 5分時間を延長します。

○副町長（佐藤 光君） ただいま伴議員の方から富士ゼロックスさんが企業進出というようなお話がありましたけれども、あくまで企業進出ではございません。企業と連携をして松崎の交流拠点、いわゆる起業をしていただくような拠点にしていきたいと思います。

富士ゼロックスさんを、それでは、我われがどのような期待をしているかということなんですけれども、先ほどもちょっと申し上げたんですけれども、やはり松崎の情報の発信力がなかなか、まだまだ他市町あるいは全国的なレベルからいうとちょっと劣っているかなということもございまして、そういったコミュニケーション技術、素晴らしい技術を持っておりますので、そういったものはやはり強みとして持っている方からの技術といいますか、ノウハウを提供いただいて、町はそもそもいろんな魅力を持っていると思いますので、個性を持っていると思いますので、そういった個性をまず情報発信していただければというようなことで、協働で拠点をソフト的な面を含めて、魅力的なものにしていこうというようなことをやっているということでございます。

○1番（伴 高志君） ぜひこの取り組みが町民の活性あるいはこの商店街の活性ということにも繋がっていくということを期待して、関わっていかれたと思います。

それでは次の質問ですけれども、伊豆地域は未婚者が多く・・・、そうですね。答弁がありま

したけれども、現在は非常に男性、女性の未婚率が高いということなんですけれども、これは、なかなかその価値観ですとか、20年以上昔との状況の変化、こういったものがあるかと思えますけれども、これは、ほんの3年くらい前は婚活イベントですとか、そういうことにも取り組んでいたように思うんですけれども、こういうのを・・・、なかなかお金がかかるのかもわからないんですけれども、もうちょっと継続的に続けてもいいんじゃないかなと思うんですけれども、いかがですか。

○町長（齋藤文彦君） 最初は町で婚活を結構やっていました。ぼくも花束を用意して待っていたわけなんですけれども、ずっと花束を渡す機会がなくて非常に残念だなと思ったところです。今度やっぱり官じゃなくて、民でやったらどうだろうかというようなことで、今度、先ほども申しましたけれども、帰一時さんがいろいろたくさんの人を集めてやってくれるということで、松崎町としてもそれを応援したいなと思っています。

地域おこし協力隊の皆さんも結構応援していますので、本当にまとまる人が2～3人増えてくれば良いなと思っているところです。

○1番（伴 高志君） やっぱりこれからの松崎町も、この近隣の南伊豆町も西伊豆町も若い人がどれだけ将来に希望をもって生きていけるか、切り開いていけるか、自分たちの努力にもよるんですけれども、こういうことに町が陰ながらサポートしていける態勢または民間と一緒に地域おこしを、地域活性を行っていけるよう期待したいと思います。

これで私の一般質問を終わりたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で伴高志君の一般質問は終わります。
